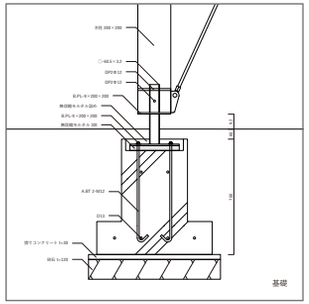
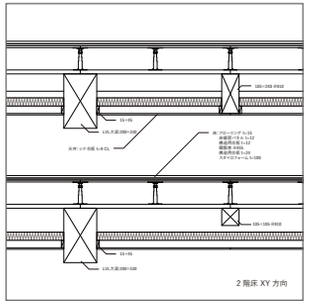
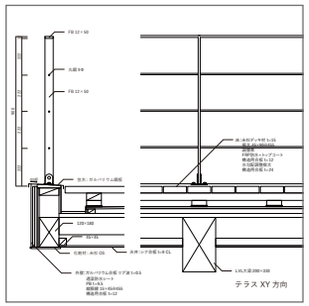
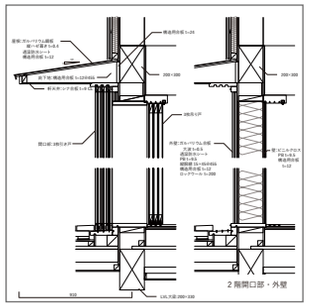
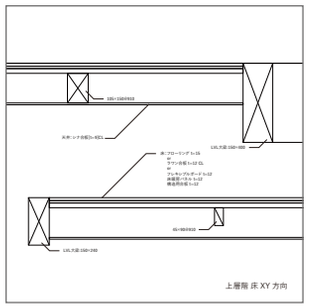
不完全な家

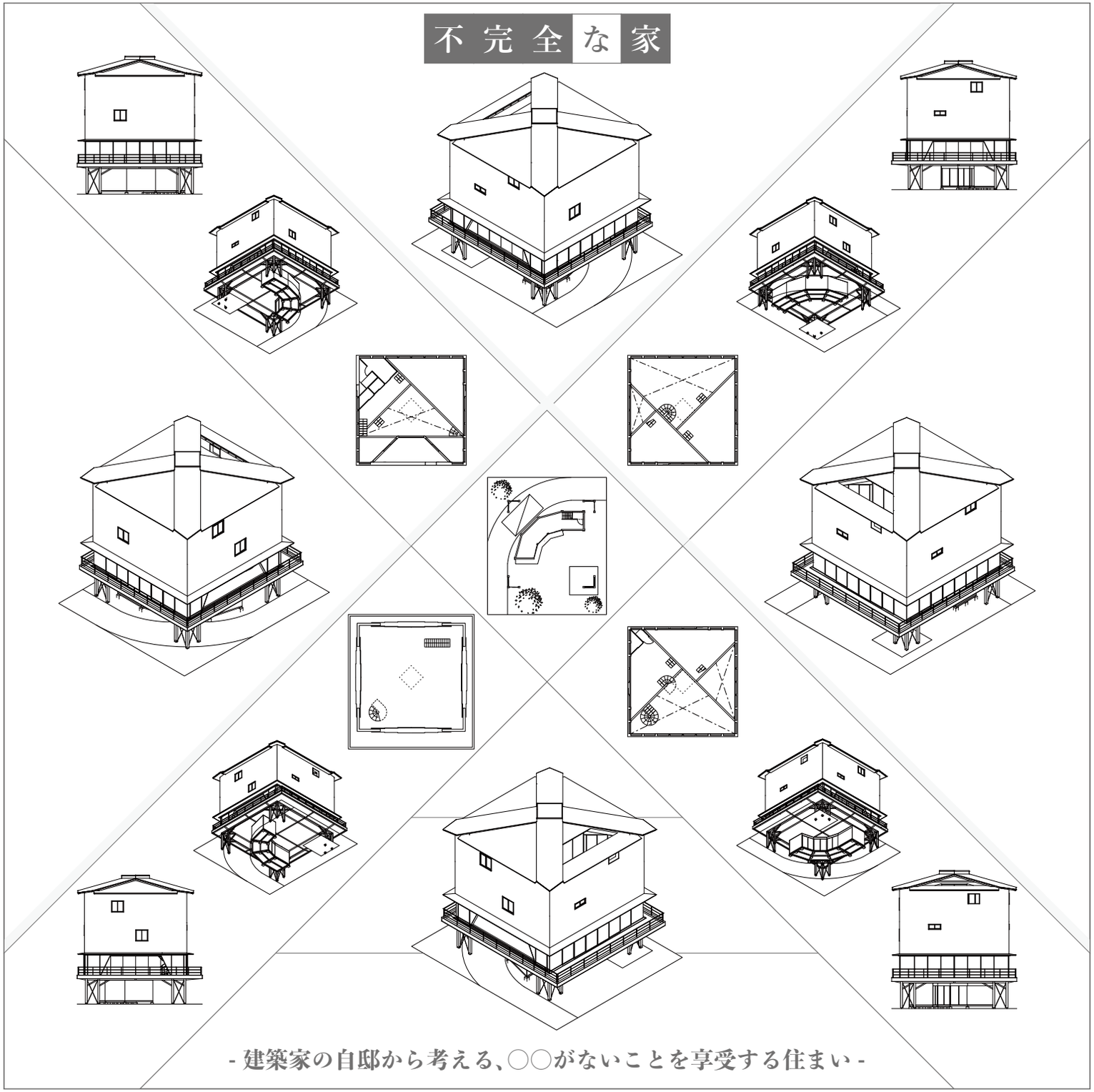




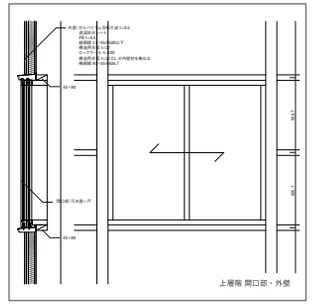


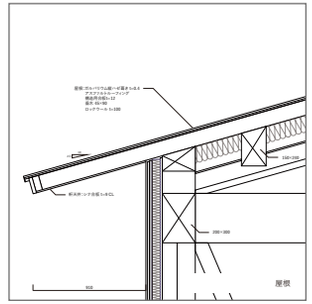


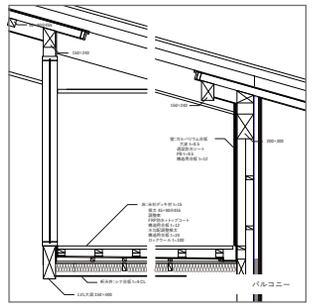


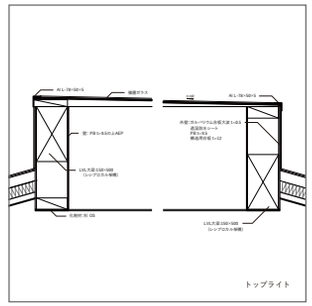


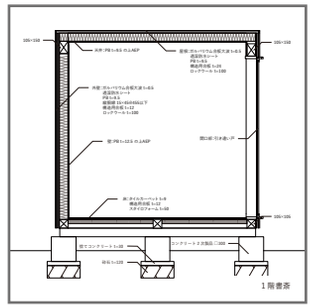
- 建築家の自邸から考える、○○がないことを享受する住まい -











0 背景 - 建築或いは、建築を構成する要素の画一化

20 世紀後半から現代にかけての傾向として、建築は建築家の作家性を根拠とした理論や思想を具現化したデザインから、クライアントを含む多様なコンテクストを取り込み設計プロセスを重視したデザインへと変化している。また、現代では SDGs などの目標や厳格化する法令制限などにより設計を行う上で**建築を規定する外的要因は複雑化**し、機能や空間、形態のデザインなどに与える影響は大きくなっている。さらに、建築物をつくる上での責任の所在が明確化される一方、様々な技術の進歩に伴い、社会的ニーズや価値観が多様化しているにも関わらず、**建築或いは建築を構成する多くの要素の画一化**が進行している。

2 調査 - 許容される、どこか不完全な家

抽出した8つのない

Ⅰ.「外皮」がない
Ⅱ.「外壁」がない
Ⅲ.「屋根」がない
Ⅳ.「間仕切り」がない
Ⅴ.「1 階」がない
Ⅵ.「窓」がない
Ⅶ.「玄関」がない
Ⅷ.「仕上げ」がない

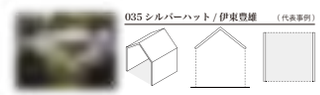
建築家自身が自邸について言及している文言が記載されている書籍に掲載されている 277 事例を対象として調査を行い、その特徴や唯一性を明らかにする。

建築家の自邸では、通常の住宅に必ず存在する要素が欠落し、**快適性や機能性を犠牲に豊かさを獲得している不完全な住宅**が許容されていた。使用者 = 自身 = 建築家という関係性によって生まれた、住宅としての形式や計画に捉われない極端な提案、「〇〇のない家」を抽出した上で、建築を構成する 8 つの部位に絞り、犠牲となった事柄と獲得した豊かさについて基礎的な分析を行う。更に、それらをダイアグラム化することでその他に発生するであろう様々な要素を書き出し、ないことが生み出す豊かさの可能性を見出し、設計提案に応用させることを目指す。

1 仮説 - 思考が最大限表現される舞台「自邸」

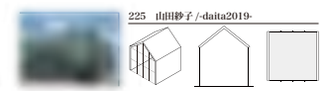
このような時代背景に逆行し、建築家の思考が外的要因に覆われることなく、力強く表現されている建築は今後の建築設計を考える上で重要度が増していると考え、**建築家の自邸に着目**する。**使用者 = 自身 = 設計者という特殊な関係性**が成立する建築家の自邸では、設計要件、要求性能、予算、敷地等の設計を行う上での多くの要素の決定権が自分自身にあり、設計に影響を与える外的要因の多くが排除されるため、**建築家の思考が最大限表現される舞台**であるともに、**画一化が進行する建築に対する批評性**を持ち合わせているのではないか。本研究では、建築家の自邸について調査及び分析を行い、既存の手法に捉われない新たな視点の設計プロセスを提示する。

3-1 分析 - Ⅰ.「外皮」がない



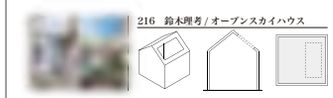
建物の内外を隔てる壁や窓がない状態。シルバーハットは、外部に開放され、自然や環境との境目がわからないような半屋外の居住空間が構成されている。外皮のない住宅は、防犯性や天候によって居住性が損なわれるが、**外部環境と限りなく一体化した空間を獲得**できる。

3-2 Ⅱ.「外壁」がない



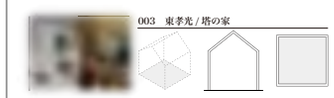
建物の外周部に設けたガラスをそのまま外皮として扱っている状態。daita2019 は、 家と庭の間に壁を作らず全て窓サッシや建具で構成し生活の風景を作るものが街に溢れ出ている。外壁がない住宅は防犯性や外部からのプライバシー等の懸念点があるが、**街との程よい距離感を保ちながら、緩やかな関係性を生み出す空間**を獲得できる。

3-3 Ⅲ.「屋根」がない



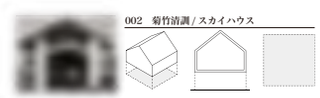
天井部分に屋根がなく空に開かれている状態。オープンスカイハウスは、リビングの上に空が広がっており、住宅街の中でも大自然を獲得している。屋根がない住宅は、天候の影響を大きく受けるが、**狭小地においてもプライバシーの確保された屋外空間と明るい住環境**を獲得できる。

3-4 Ⅳ.「間仕切り」がない



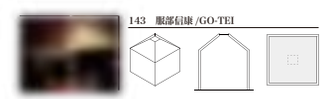
内部空間の仕切りがなく全体が繋がった一体空間になっている状態を。塔の家は吹き抜けを設けることで階層間の間仕切りや扉が一切なく、上下に繋がったワンルームとなっている。間仕切りがない住宅は、居住者同士のプライバシー等の懸念点があるが、**家族間の関係性の構築や生活の場を限定しない柔軟な住環境**を獲得できる。

3-5 Ⅴ.「1 階」がない



主な居住空間が 2 階以上に配置されている状態。スカイハウスは、1 階部分はピロティとされ家族構成の変化に応じて増築が可能となっていた。1 階がない住宅は、生活上の利便性が劣るが、**公共的に開かれた空間を構成し、将来の増改築のための余白として機能**する。

3-6 Ⅵ.「窓」がない



内部空間の窓が極端に少なく、絞り込まれた光で全体の採光を行っている状態。GO-TEI は、採光をトップライトから差し込む光に限定することで太陽の光を体で感じる空間が構成されている。窓がない住宅は、暗く閉じられた生活空間となるが、**非日常的で神秘的な空間**を獲得できる。

3-7 Ⅶ.「玄関」がない

住宅の出入り口が外部に開かれている状態。まちの家では、通りに面した 1 階が風除室を兼ねた多目的スペース等となっており、街のための空間となっている。玄関がない家は、防犯性やプライバシーの懸念点があるが、**常に街と接続され、様々な環境が混ざり合う空間**を獲得できる。

3-8 Ⅷ.「仕上げ」がない

内装仕上げが施されずに建築を構成する部材が剥き出しになっている状態。福島の自邸は、仕上げ材をほとんど使用しない住宅とすることで住まい手による更新が可能となっている。仕上げのない住宅は、機能性では劣るが、**社会背景や家族構成等に変化合わせた小規模な更新が容易となる空間**を獲得できる。

4 提案 - ないことによる豊かさを享受する暮らし

4-1. 提案概要

これまでの分析を住宅の設計に落とし込み、”〇〇がないこと”から建築を考えることによって、「**ないことによる豊かさ**」**を享受する暮らし**を営む**不完全な家**を提案する。

本提案では、将来の私自身の家を設計対象とし、検証として設計提案を行う。

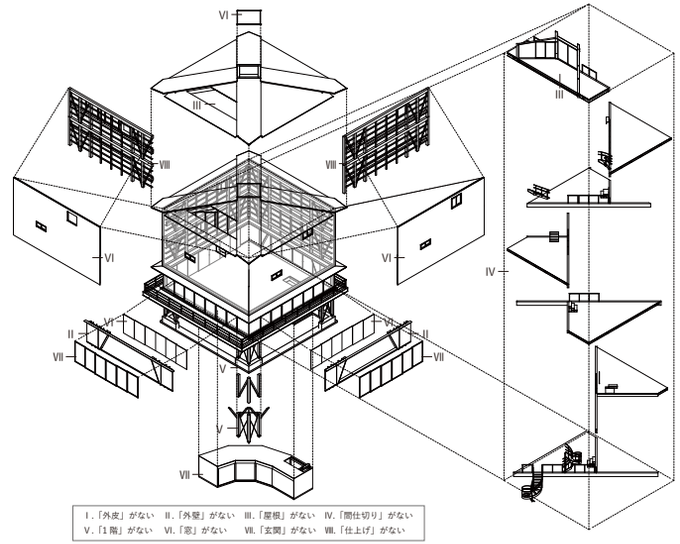
〇〇がない	不完全な家
Ⅰ.「外皮」がない →	
Ⅱ.「外壁」がない →	
Ⅲ.「屋根」がない →	
Ⅳ.「間仕切り」がない →	
Ⅴ.「1 階」がない →	
Ⅵ.「窓」がない →	
Ⅶ.「玄関」がない →	
Ⅷ.「仕上げ」がない →	

SITE S:1/2000

4-2. 敷地及び居住者

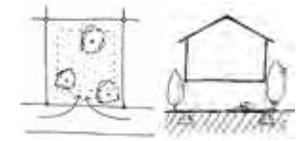
敷地は千葉県船橋市にある祖父の所有する土地とする。居住者は夫婦・子供 2 人を想定し、基本となる設計要件は、自分自身で手を加えながら生活したいこと、将来的にはこの場所で個人建築設計事務所を開設することとする。

5 全体構成 - 部分的に応用し、全体を統合する



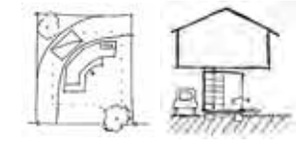
8 つの〇〇がないを部分的に応用し、それらが共存することによる補完関係やメリットをスタディすることで全体を統合した 1 つの住宅を設計する。

6-1 部分構成 -Ⅴ.『1 階』がない

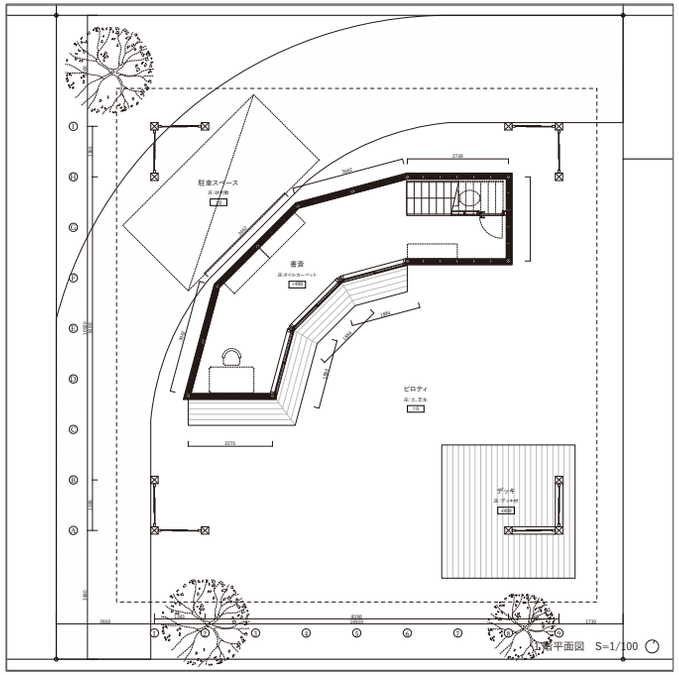


1 階部分は街に開放し公園のような公共空間とし、道ゆく人との距離を保ちながら**建築を街に開く**。布基礎を用いることでピロティに草木が芽吹き自然が入り込み、大きな軒下に人々が誘い込まれる。大きな余白ともなるこの空間は**将来的な増改築を許容**する。

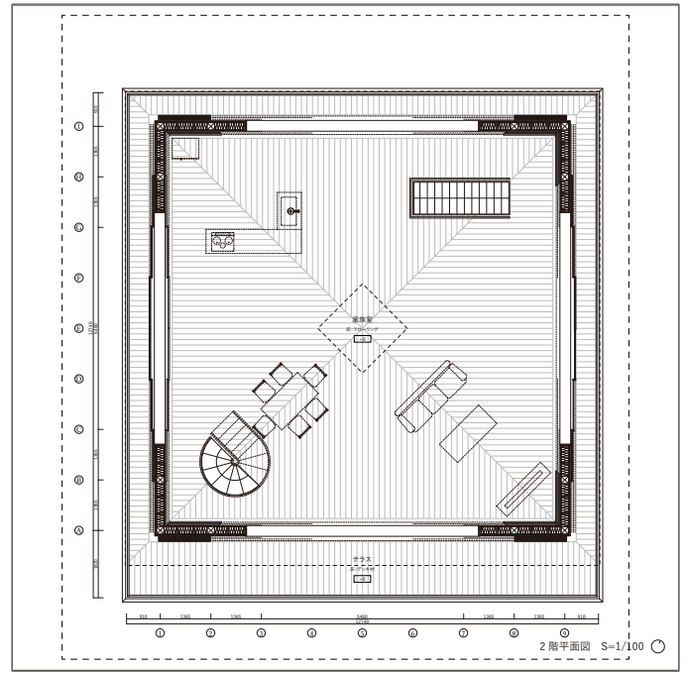
6-2 Ⅶ.『玄関』がない



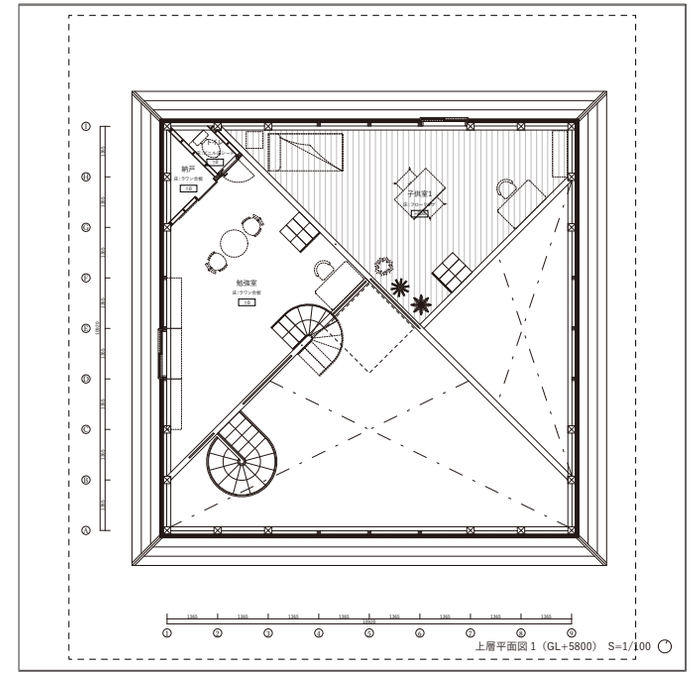
ピロティに面して書斎を設け、ここを出入口とすることで**住まいと街の境界を曖昧**にする。家主の仕事を日常的に体感し、**家族間の密な関係性を構築**する。上部躯体とは切り離されているため、仮設的で人々を受け入れる形態とし、駐車場とピロティを分割している。



1 階平面図 S=1/100

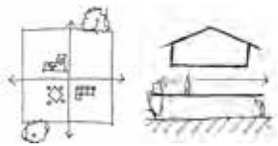


2 階平面図 S=1/100



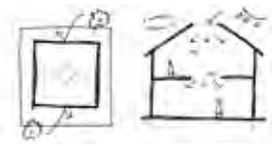
上層平面図 1（GL+5800） S=1/100

6-3 Ⅰ.『外皮』がない



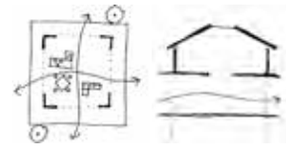
道ゆく人々からの視線を遮ることができる 2 階に LDK を兼ね備えた家族室を計画しした。外周部の建具を開放することによって、デッキまで広がる室空間となり、内外の境界のない**自然環境と一体化した屋外空間**での生活を可能とした。

6-4 Ⅵ.『窓』がない



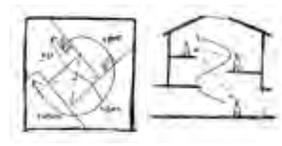
2 階は建具により、**周囲との関係を断絶した空間**ともなる。上層部には通風を目的とした最小限の開口部を設置し、吹き抜けを介して各部屋に届く光で採光を得るため、**家族皆が中心を向いた暮らし**を営む。中心性を生む天窓からはどの空間にいても空を望める。

6-5 Ⅱ.『外壁』がない



2 階はガラス建具により、外壁がない空間ともなり、周囲との緩やかな関係性を保ちつつ、**生活の風景が溢れ出る**。四隅に L 字の構造体を設けここに建具が収納される設いとすることで、外壁、窓、外装がない状態を同時に成立させている。

6-6 Ⅳ.「間仕切り」がない

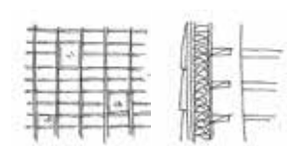


2 階以上は一体空間とし、レベルの異なる床によって**居場所を選択しながら生活**ができる。目線の違いにより家族間の適度な距離感を保ち、**お互いが接点を持ちながら生活**を行う。大梁と吊り材によって床を構成し、柱を無くすことで開放的な空間を獲得している。

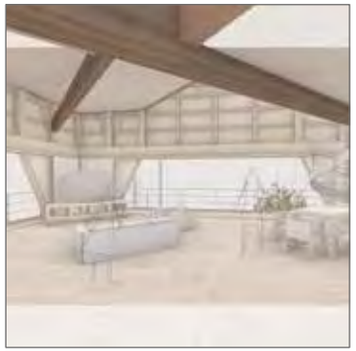
6-7 Ⅲ.「屋根」がない

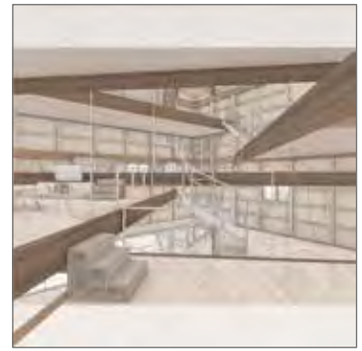
最上部にバルコニーとなる屋根のない部屋を計画し、プライバシーを確保した屋外空間を設けた。間仕切りがないことより、この部分から住宅内部の奥深くまで光が差し込み、吹き抜けを介して**室内全体を明るく照らす**。

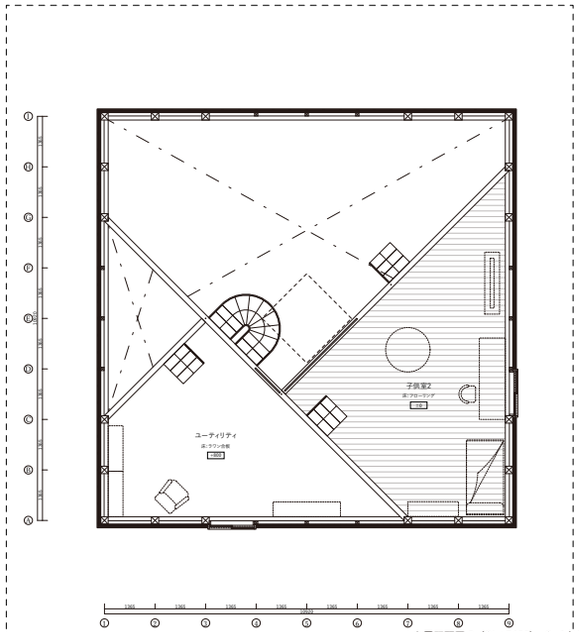
6-8 Ⅷ.『仕上げ』がない



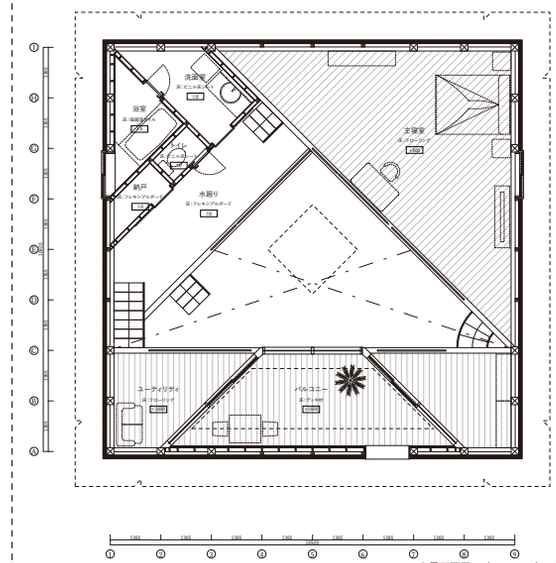
上層部は内壁の仕上げがなく、外壁を支える骨組みが剥き出しとなっており、断熱層はこれより外周部に設けられている。これにより様々なスケールの増改築や多様な使われ方を許容し、社会状況や生活環境、家族環境の変化を受け入れながら生活を行う。



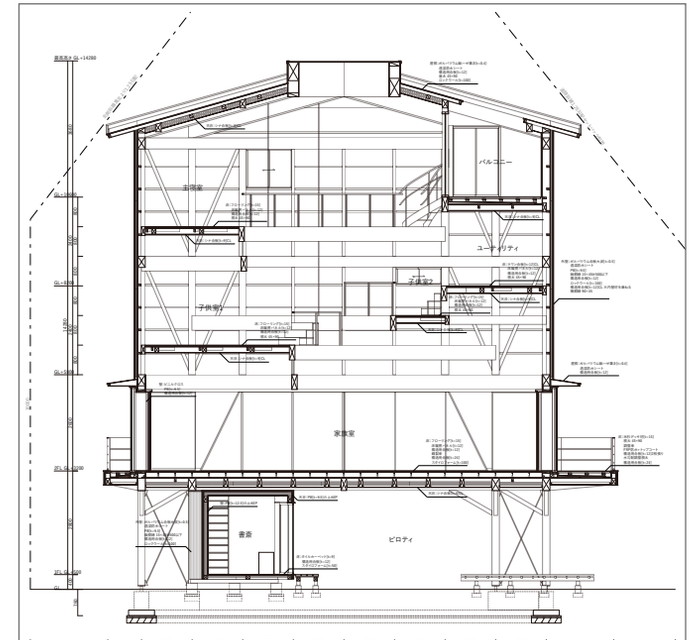




上層平面図 2（GL+7400） S=1/100



上層平面図 3（GL+8200） S=1/100



南北面断面図 S=1/100